

# この人に..

## サタデーインタビュー

—今年は「世界天文学」イタリヤの科学者ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡で天体観測をして400年になります。見どころは7月に皆既日食、8月に土星の輪が消える「土星環の消失」があります。

46年ぶりとなる皆既日食は、熊本では7月22日午前9時、正午、東の空で部分日食として見られます。午前11時ごろ、ほとんどの部分が欠けた太陽が観察できます。

15年ぶりの土星環消失は8月11日午後7時半〜午後8時、西の空で、10度の高さに現れます。当日は高度が低く、観察は難しいですが、輪は3月ごろから薄くなり、消える直前まで楽しめます。

—観察方法は

部分日食は決して、望遠鏡

### 南阿蘇ルナ天文台長

### 宮本 孝志さん (52)

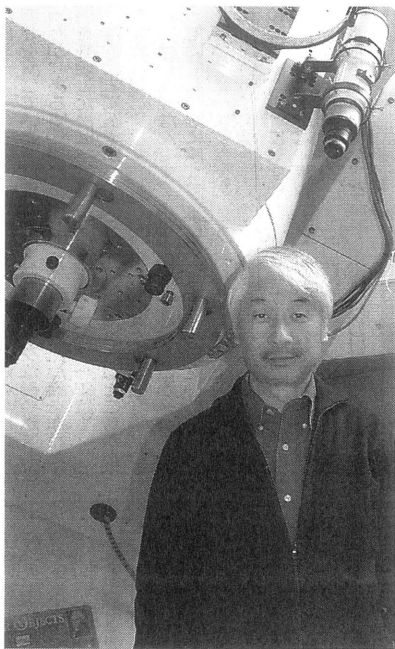
## 「本物の星」触れる感動

や双眼鏡、虫眼鏡で見ているだけじゃありません。失明してしまいがちです。天文台やプラネタリウムなどで買える日食専用の眼鏡を使ってください。小さな穴を開けた画用紙を太陽にかざせば、地面に太陽の欠けた影が映ります。

土星環の消失は家庭用の口径6センチの望遠鏡で見られます。土星は明るい星なので見つけやすい。天文台やプラネタリウムで、自宅から見えます。

土星の方角と時間を聞いておくと良いでしょう。

—南阿蘇ルナ天文台は「望遠鏡の大きさが九州一の私設天文台」だそうです。96年にここを造った理由は幼いころから星が好きでした。高校1年で買った口径6.5センチの望遠鏡は今も現役です。熊本市内から南阿蘇村に移り住んだ86年、星を見ようと思っても天文台が少なかった。それなら自分で造ってし



みやもと たかし 56年、八代市生まれ。86年に熊本市から南阿蘇村に移り、ペンション「森のアトリエ」を開く。96年、南阿蘇ルナ天文台を造り、株式会社えほんのくにに代表を務める。

ピア南阿蘇を設立。ペンションや天文台のほか結婚式場、レストランを経営する。日本公開天文台協会副会長、南阿蘇

### 不況の今こそ夜空見上げたい

星と人間の付き合いは、メソポタミア文明の時代にさかのぼるといふ。星は見える角度や位置が季節ごとに変わり、作物の収穫時期を教えてくれた。人間は星座を考え出し、農業などに生かすべを伝えた。

今も、星空は変わらず頭上に輝いているはずなのに、街に住むと「星空を見上げることができなくなる」と宮本さんは言う。空はビルに遮られ、都市照明の光害が星の弱い光を隠し、そして空を見上げること自体が減った。先達の知

恵はもう必要ないのだろうか。そうではあるまい。ガリレオが望遠鏡を自作して月などの天体観測を始めたのが、ちょうど400年前のことだ。彼が切り開いた天文学の世界がいま私たちに、人類の暮らす地球という惑星を実感させる。

現代は「100年に1度」という経済危機に見舞われている。先行きに不安を抱えるとうつむきたくなるが、あえて夜空を見上げて思索をめぐらせたい。メソポタミアの民やガリレオのように。(磯部佳孝)

まおうと考えました。凍く、暗い星々も詳しく見たいの思いから、望遠鏡は口径82センチ、高さ約6メートルの大きさにしました。

—星の魅力は何千年も宇宙を旅してきた星の光を直接見た時の感動は体験してみないと分かりません。天文台で土星の輪を見た人は「本当に輪があるんですね」「なんて人は小さい存在なんですよ」などと驚きます。土星の輪は図鑑や映像では何度も見ているはずなのに、やはり、本物に触れた時の思いは格別です。

—熊本県の夜空は天体観測に適していますか

街中の照明で星が見えにくくなる光害は深刻です。熊本市内だけでなく、郡部も郊外型店舗が増え、南阿蘇村も薄雲や霧が出るので星が見えにくくなります。公開されていく天文台は全国に約400カ所ありますが、公設天文台の経営は厳しい。入場者数が少ない天文台は予算が切りつめられていますが、文化施設の優劣は経済指標ではかるべきではありません。もちろん天文台の側も、社会に貢献する努力が必要です。